

第2章

健康市民おかやま21の成果

健康市民おかやま21の成果

(1) 最終評価結果のまとめ

1) 主観的健康感の評価結果

中間評価において計画の上位目標とした「健康を自覚できる人の増加」については78%であり、目標値を達成していました。この項目は岡山市の都市ビジョン（平成21年）の成果指標ともなっています。

2) 地域での健康づくりへの取り組みの評価結果

地域での推進体制の整備

保健センターエリアごとの6カ所の推進会議だけではなく、より住民に身近な小単位の組織づくりを目指し、中学校区単位21カ所、小学校区単位13カ所に推進組織が出来ました。

(策定時(平成15年度):中学校区単位6カ所、小学校区単位1カ所、
中間評価時(平成19年度):中学校区単位15カ所、小学校区単位4カ所)

地域のネットワークの広がり

地域で複数の組織・団体が連携して健康づくりへの取り組みが活発に行なわれるようになり、地域のネットワークの範囲が広がり、つながりも密になりました。地区組織や21推進組織だけでなく、新たに企業や学校との連携ができた地域も一部あり、地域によって差がありました。

地域の推進組織の健康づくり活動の状況

分野別取り組みでは、中間評価時まで取り組みの進んでいなかった「こころの健康づくり」の分野は、地域自殺対策緊急強化基金をきっかけに平成22年度以降進んだ地域が多かったです。

また年代別にみると、青壮年期への取り組みが不十分とした地域が多かったです。

3) 生活習慣や行動、学習、環境整備などの評価

目標値達成もしくは改善している項目が64項目中40項目(62.5%)でした。

<目標項目評価結果>

策定時の値※1と直近値を比較	項目数
◎ 目標値に達した	8
○ 目標値には達していないが改善した	32
△ 策定時値と比較してほぼ変化なし	18
× 策定時値と比較して悪化した	6
合計	64
評価困難※2	25

※1 中間評価時に新たに追加した目標項目については、中間時の値と比較している

※2 評価困難：策定時に目標設定していたが、最終評価において評価できる指標がないもの

なお、上記の各評価結果の目標項目の主なものは以下のとおりです。

◎	健康状態がよいと感じる市民の割合の増加 終日禁煙に取り組んでいる事業所、飲食店の割合の増加 12歳児の1人平均むし歯数の減少 など
○	食塩を控えている人の割合の増加 定期的に運動している人の割合の増加 睡眠で休養が十分とれている人の割合の増加 喫煙している割合の減少 60歳代で自分の歯を24本以上保っている人の割合の増加 地域活動に参加している人の割合の増加 など
△	朝食を毎日食べている幼児、児童の割合の増加 ストレスの解消ができていない人の割合の増加 多量飲酒者の割合(3合以上)の減少 など
×	朝食を欠食する割合(20~30代)の減少 ストレスをよく感じる人の割合の減少 など

(2) 最終評価の方法

「健康市民おかやま21」のこれまでの取り組みを評価し、平成25年度からの次期計画に反映させることを目的として、市民、専門家、公民館職員、保険者、学識経験者らで構成した「健康市民おかやま21活動評価部会」において、平成23年度から24年度にかけて種々のデータをもとに最終評価を行いました。

1) 評価の枠組み

上位目標である「健康を自覚できる人の増加」の評価、「地域での健康づくりへの取り組み」の評価、「生活習慣病予防に必要な6分野についての生活習

慣や行動、学習、環境整備など」の評価を行いました。

評価にあたっては、中間評価と同様に、上記の内容の評価が出来るよう、結果（アウトカム）の評価だけではなく、これまでの取り組みの経過（プロセス）やその影響（インパクト）の評価を行なうこととしました。

しかし取り組みの経過や影響を評価する既存の指標がほとんど無かったため、中間評価の際に、活動の到達段階や方向性を確認できる評価指標「ものさし」を作成し、さらに最終評価では10年の間に地域で広がり、強まった組織・団体の連携を評価できる指標「組織関係図」を作成しました。これらによって、活動の基盤整備、保健活動の質と量、関係性などを評価できるようになりました。

2) 評価指標

指標の構造



健康市民おかやま21の評価に使用するデータを、保健活動の評価指標の構造※にあてはめて、どの指標として使用するかをあらわしたものです。既存のデータや、新たに得たデータを利用して、すべての指標を網羅できるようにしました。

評価に用いた資料の詳細は28ページ～52ページに掲載しています。

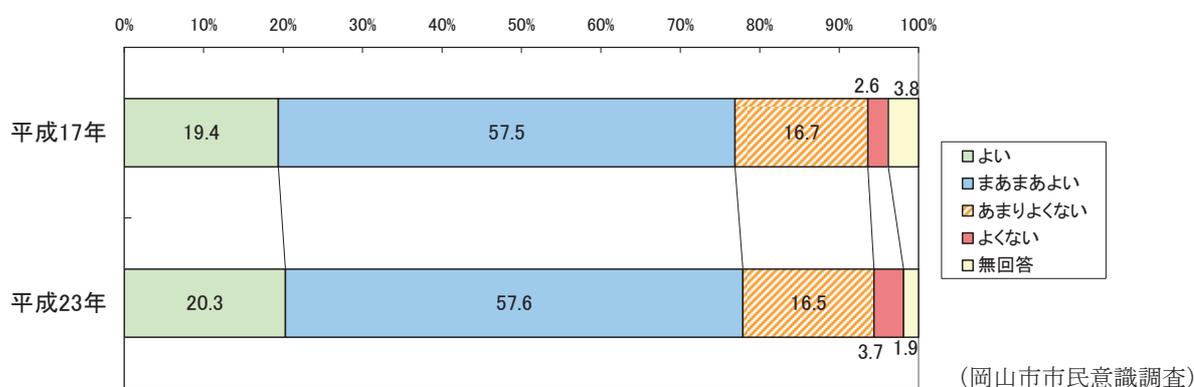
(3) 最終評価結果詳細

1) 主観的健康感

目標項目： 健康を自覚できる人の増加

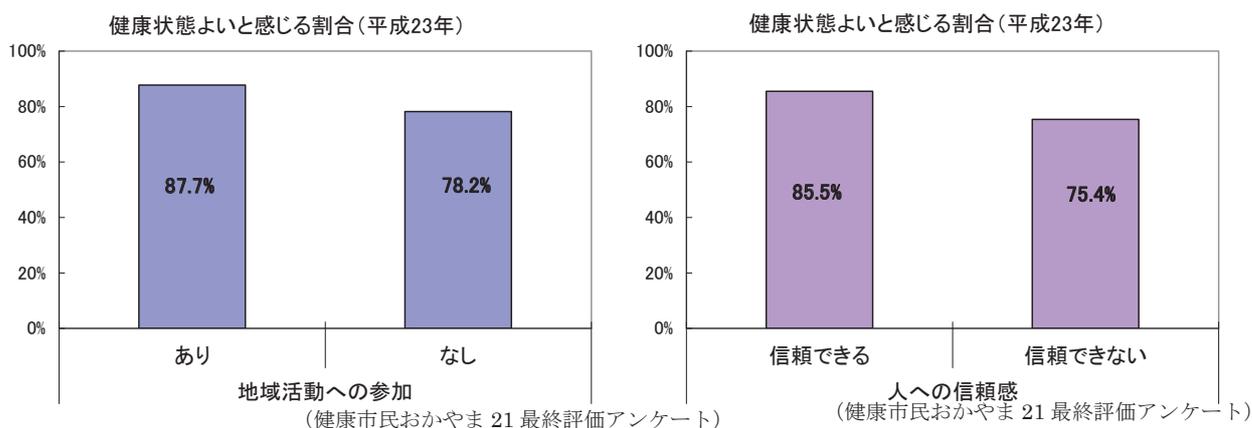
目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成度
健康状態がよいと感じる人の割合	—	77%	78%	78%	◎

(データ出典：岡山市市民意識調査) (策定時、中間時、最終時のデータの時期は各指標によって異なります。詳しくはデータの出典 52 ページをご覧ください。)



健康状態が「よい」「まあまあよい」を答えた人の割合はわずかに増加して、目標値に達していました。この項目は岡山市の都市ビジョンの成果目標ともなっています。

主観的健康感とソーシャルキャピタル*とは関連あり



地域活動に参加している人、人への信頼感が高い人のほうが、健康状態がよいと感じる割合が高かったです。

※ソーシャルキャピタル：「信頼」「社会規範」「ネットワーク」といった人々の協調行動の活性化により、社会の効率性を高めることができる社会組織に特徴的な資本を意味するものとされています。

2) 分野別の成果

① 栄養・食生活



主な目標項目の達成状況

(達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化)

目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成度	
食塩を控えている人の割合	30%	—	53%	57%	○	
腹八分に気をつけている割合	—	68%	60%	70%	×	
バランスよく食べている割合	—	56%	55%	60%	△	
若い人の朝食をとらない割合	20～30代男性	—	27%	24%	×	
	20代女性	—	25%			
朝食を毎日食べている	幼児の割合	96%	—	97%	増加	△
	児童の割合	87%	—	87%	100%	△
	生徒の割合	68%	—	75%	100%	○
栄養成分表示を利用している割合	34%	39%	40%	48%	○	

(すべての指標、目標値、達成状況、データ出典の詳細は48～52ページに掲載しています。)

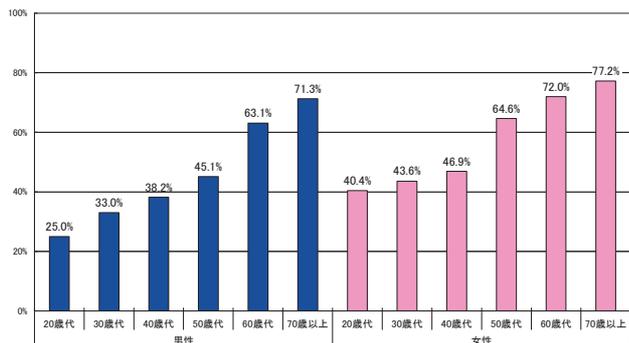
評価結果の概要

- * 栄養素・食品（食塩、野菜、脂肪、カルシウム）の摂取意識は改善した。ただし20～30歳代については、他の年代よりも低かった。
- * 腹八分の食事量に気をつけている割合は悪化、バランスよく食べることに気をつけている割合は変化なかった。
- * 20～30歳代の朝食欠食割合が高く、中間評価以降悪化していた。全国平均も同様の傾向であった。
- * 朝食を食べていない幼児・児童の割合は変化なく、生徒の割合は減少し改善した。
- * 栄養成分表示を利用している割合は増加した。男性は女性の半分しか利用していなかった。

今後の課題

- ・ 生活習慣病予防のためには、若い世代のうちから減塩など食生活に注意できるようなアプローチが必要である。
- ・ 適切な量や質の食事をとる習慣を広め、適正体重を維持している人を増やしていく。
- ・ 外食時や食品購入時に栄養成分表示を利用する習慣を広めていく。特に男性への働きかけが大切である。

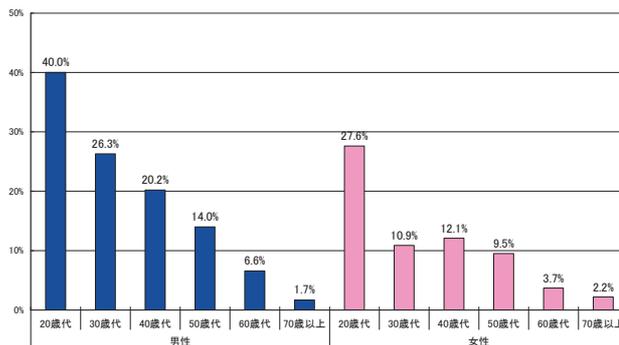
食塩を控えている割合(平成23年)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

食塩を控えている割合は男女とも年代が低いほうが低かった。

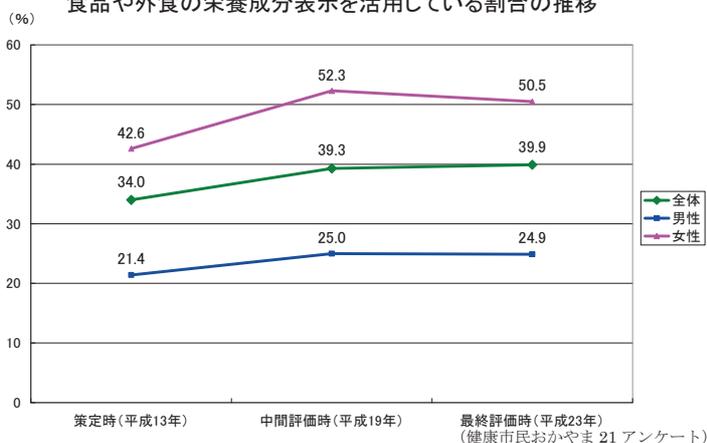
朝食を抜くことが多い割合(平成23年)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

朝食をとらない割合は男性 20~30 歳代、女性 20 歳代が高かった。

食品や外食の栄養成分表示を活用している割合の推移

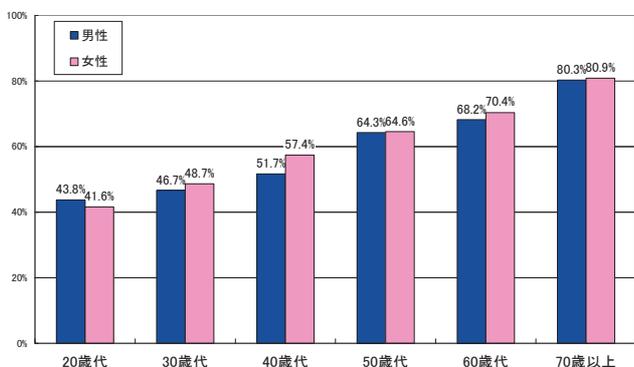


(健康市民おかやま 21 アンケート)

栄養成分表示を利用している割合は前半 5 年間で増加したものの、後半は横ばいである。男性は女性の半分しか活用していない。



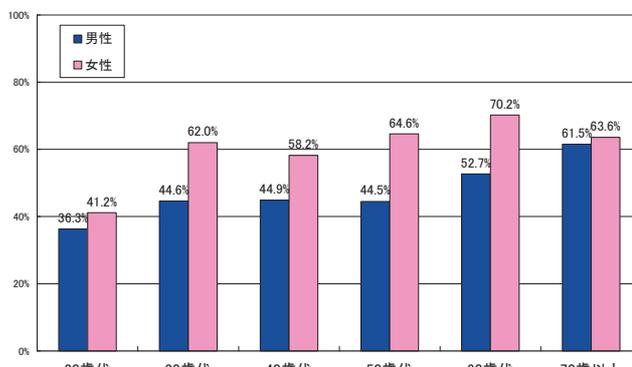
腹八分の食事量に気をつけている割合(平成23年)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

腹八分の食事量に気をつけている割合は男女とも年代が低いほど低い。男女差はどの年代もなかった。

食事の際、バランスよくとっている割合(平成23年)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

バランスよく食べている割合は、どの年代も男性のほうが女性よりも低かった。年代別に見ると20歳代女性、男性は50歳代まで50%以下であった。

②身体活動・運動



主な目標の達成状況

(達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化)

目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成度
定期的に運動している人の割合 (1回30分以上、週2回以上の運動)	17%	26%	32%	39%	○
	男 19% 女 16%	男 28% 女 24%	男 36% 女 29%		
外遊びしている幼児の割合 (1日1時間以上の外遊びをしている割合)	64%	48%	50%	増加	×

(すべての指標、目標値、達成状況、データ出典の詳細は49～52ページに掲載しています。)

評価結果の概要

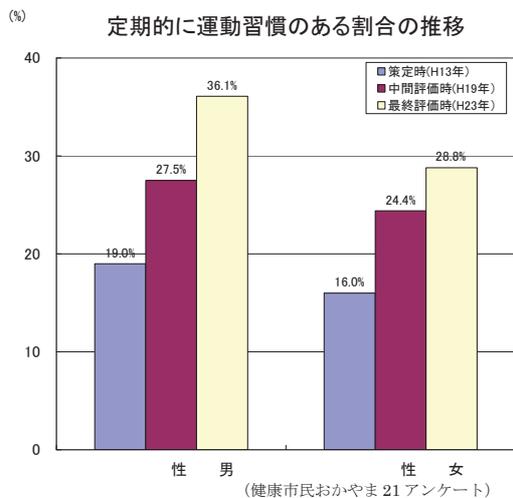
- * 定期的な運動習慣のある人の割合は、策定時、中間時と比較して男女とも増加していた。年代別にみると60歳代以上は運動習慣がある割合が高く、男性30～40歳代、女性20～40歳代は運動習慣のある割合が低かった。運動習慣のある割合は全国平均(男性32%、女性27%)と比較して男女ともわずかに高かった。
- * 外遊びをしている幼児の割合は策定時より低下したが、下げ止まっていた。

今後の課題

- ・ 運動習慣の少ない20歳代～40歳代の若い世代、働き盛り世代に対して、ライフスタイルに応じた運動習慣を持てるような対策が必要である。
- ・ 60歳代以上は運動習慣ある割合が他の世代よりも高いが、高齢期の体力低下予防、生活機能低下予防につなげていく取り組みが、今後元気な高齢者を増やし、介護が必要な高齢者を減らしていくためにも必要である。

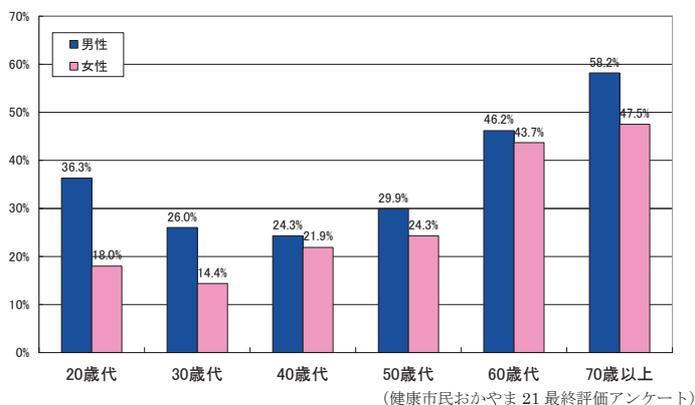


市内各地でウォーキング大会が開催されました。

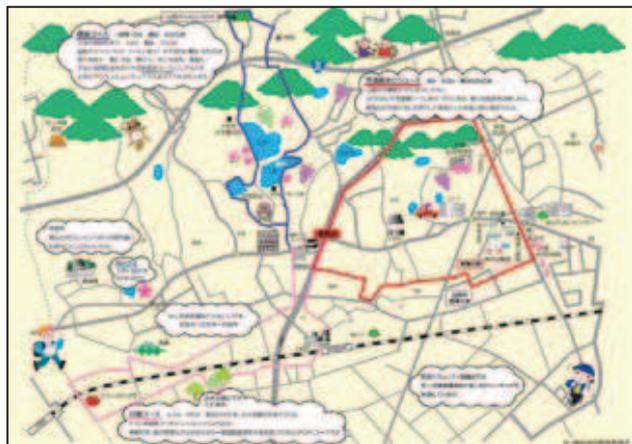


策定時からの10年で男女とも運動習慣のある割合は増加した。

定期的な運動習慣のある割合(平成23年)



最終評価時(平成23年)の定期的な運動習慣のある割合はどの年代も男性のほうが女性よりも高かった。男女とも60歳代以上は運動習慣のある割合は高かったが、青年～壮年期は低かった。



ええとこ発見図 (市内で28枚作成)
お近くのウォーキングコースを歩いてみましょう。

岡山市保健所 ええとこ発見図

検索

自分たちの住んでいる「地域の良さ」を再発見しようという視点で作成したものです。作成過程で、地域を何度も歩くことにより普段見過ごしていた大切な資源を再確認しあい、話し合いを重ねてつくりあげました。

③休養・こころの健康づくり



主な目標項目の達成状況

(達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化)

目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成度
ストレスをよく感じる人の割合	37%	43%	43%	37%	×
ストレスを感じたとき、相談できる人や場所がある人の割合(男性)	—	67%	74%	増加	○
睡眠で休養が十分とれている人の割合	77%	—	81%	89%	○
従業員が「うつ」の正しい知識を学ぶ機会がある事業所の割合	—	4.0%	10%	増加	○
自殺者数	130人 (平成12年)	132人 (平成17年)	133人 (平成21年)	減少	×

(すべての指標、目標値、達成状況、データ出典の詳細は50～52ページに掲載しています。)

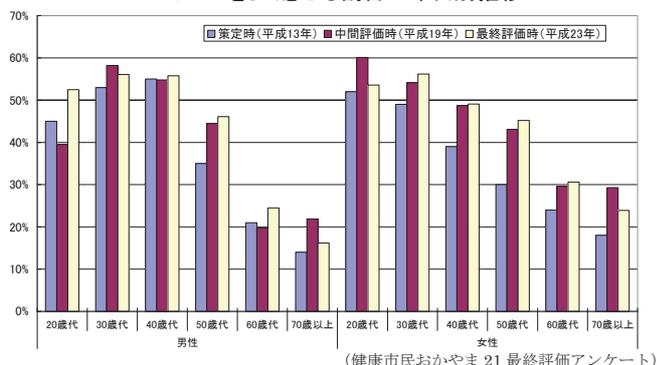
評価結果の概要

- * ストレスを感じる割合は中間評価時増加し(悪化)、その後変化なかった。男女とも30歳代をピークに20～40歳代のストレスを感じる割合が高かった。ストレスをいつも感じる割合は男女とも「勤め人」で高く、仕事のストレスを感じている人が多いと考えられる。
- * ストレスを感じたときに相談先がある人の割合は増加した。中間評価時よりも改善しているものの男女差が大きく、相談先が無い割合は男性のほうが高い状況が続いていた。
- * ストレス解消できている割合は変化がなかった。
- * 眠るために飲酒をする割合は男性50～60歳代が高く、その年代で「常に」と答えたのは17～18%であった。
- * 事業所でのこころの健康への対応は改善した。
- * 自殺者数は減少していない。性・年代別にみると男性50歳代が多い。

今後の課題

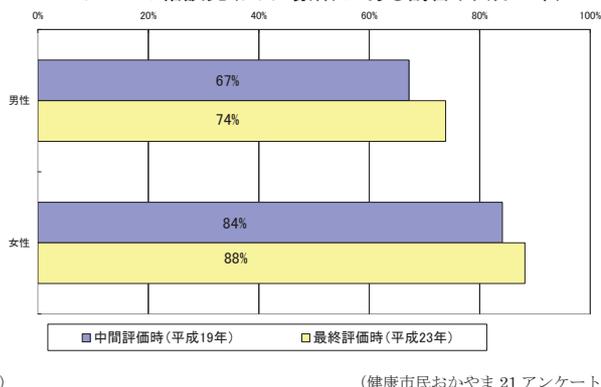
- ・ ストレスの相談先がない割合はどの年代も男女差が大きい。男性が相談先をもっている割合を増やす必要がある。
- ・ 寝酒をする世代(男性50～60歳代)には睡眠とアルコールに関する正しい知識の普及が必要である。
- ・ 事業所で、従業員が「うつ」の正しい知識を学ぶ機会がある割合、管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合は増加したものの、まだ1割～2割程度と低く、増加するよう職域への働きかけが必要である。

ストレスをよく感じる割合の年代別推移



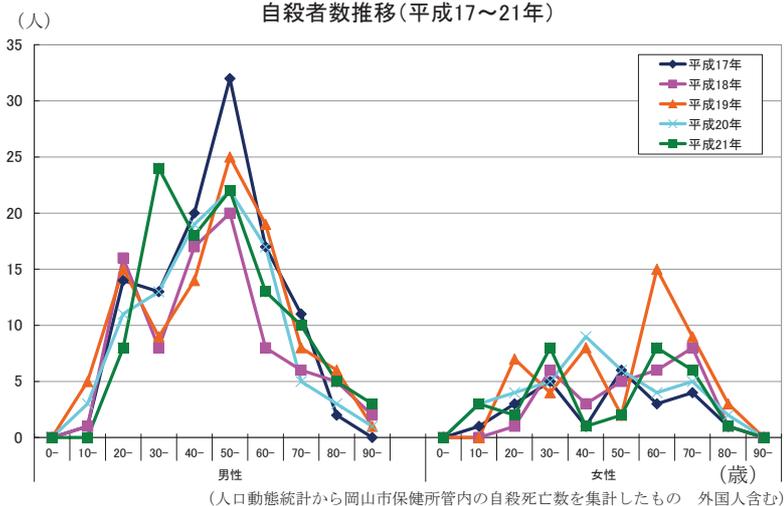
ストレスをよく感じる割合はどの年代も10年前よりも増加していた。最終評価時には男女とも30歳代が最も高く、約56%であった。

ストレスの相談先(人や場所)がある割合(平成23年)



ストレスを感じたときに相談先がある割合は増加していた。ただし男女差があり、男性のほうが女性よりも相談先がある割合が低かった。

自殺者数推移(平成17~21年)



自殺者数は男性が女性の約2~4倍であり、男性50歳代の自殺者数が多かった。

自殺予防のとりくみ

平成22年度から、地域自殺対策緊急強化基金を活用し、市内各地域の21推進組織が自分たちで企画した自殺予防の取り組みを行ないました。啓発イベントの開催やグッズ作成等、こころの健康づくりを含む様々な自殺予防活動が行われました。



岡山市自殺予防ロゴマーク

地域の人々(People)が年齢、性別、立場を超えて様々なしくみ(System)でつながる(Link)。思いやり、助け合い、支え合い、絆を深め、誰もが住みやすい地域をつくる……そんな願いをこめて作成しました。

④たばこ



主な目標項目の達成状況

(達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化)

目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成
喫煙している割合	男性 50 %	男性 36%	男性 32%	減少	○
	女性 12 %	女性 11%	女性 8%	減少	○
妊婦で喫煙習慣のある人の割合	6%	4.4%	3.4%	0%	○
終日禁煙に取り組んでいる事業所の割合	4.7%	20%	28%	25%	◎
終日禁煙に取り組んでいる飲食店の割合	—	27%	30%	30%	◎
禁煙治療、ニコチンパッチの保険適用認知度	—	42%	61%	増加	○

(すべての指標、目標値、達成状況、データ出典の詳細は 50～52 ページに掲載しています。)

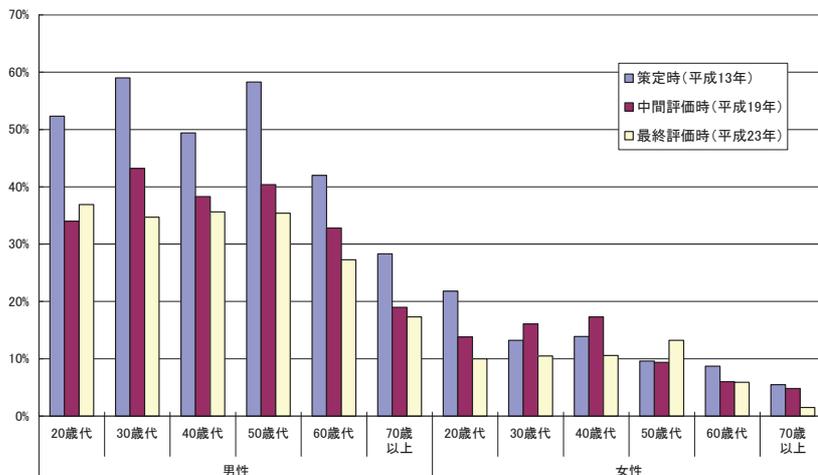
評価結果の概要

- * 喫煙率は男女とも策定時の約 3 分の 2 に減少した。50 歳代女性以外はどの年代も大幅に減少していた。最終評価時には、全国平均（男性 38.2%、女性 10.9%）と比較して男女とも低い喫煙率であった。
- * 喫煙者は男女とも半数以上が禁煙の意思があった。女性は禁煙意思のある割合が喫煙者の約 6 割と、男性よりも高かったが、10 年間でその割合に変化は無かった。男性の喫煙者の禁煙意思のある割合は増加した。
- * 事業所や飲食店の終日禁煙実施割合は増加しており、受動喫煙に関する環境整備も進んできた。

今後の課題

- ・ 終日禁煙実施している事業所や飲食店は増加したものの約 3 割にとどまっている。
- ・ 受動喫煙を減らす環境づくりをすすめていく必要がある。
- ・ 喫煙者のうち禁煙意思のある人が禁煙できるよう、禁煙治療の情報提供をすすめていく。
- ・ 妊婦の喫煙率は減少しているものの 3.4%であった。妊娠、胎児、出生児への影響をふまえ、さらに減少を目指していく。

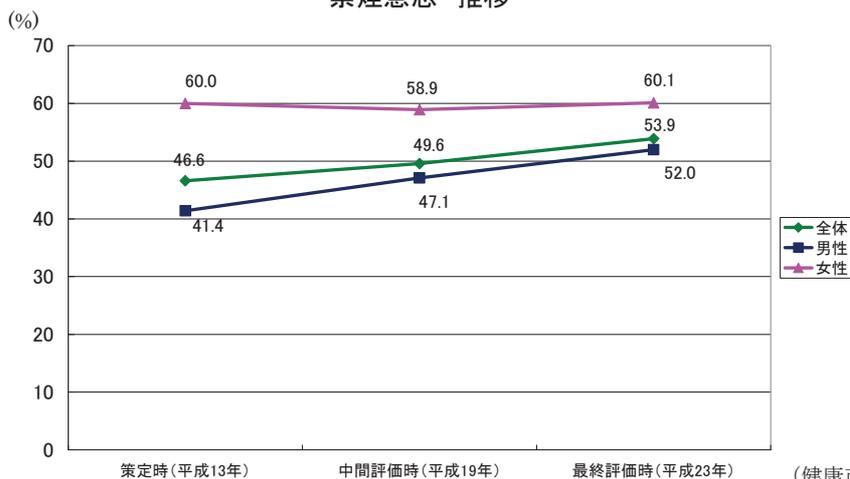
喫煙率推移



喫煙率は男性ほどの年代でも大幅に低下した。女性も50歳代を除く年代で低下した。

(健康市民おかやま 21 アンケート)

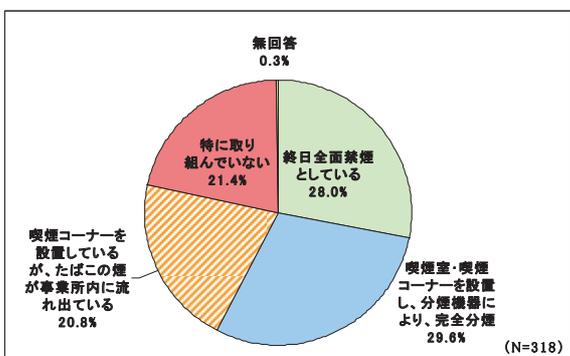
禁煙意思 推移



喫煙者のうち禁煙の意思がある割合は男性は増加したが女性は横ばいであった。最終評価時には男性喫煙者の約5割、女性喫煙者の約6割が禁煙意思があった。

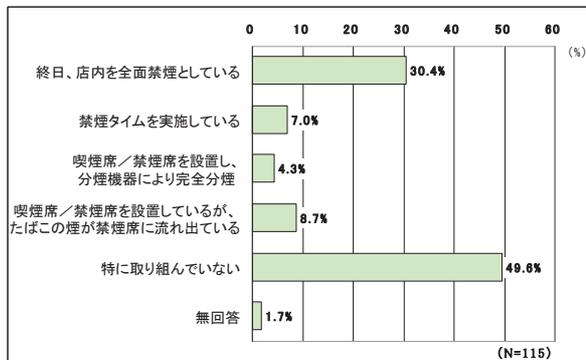
(健康市民おかやま 21 アンケート)

事業所内の禁煙・分煙(平成 23 年)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

飲食店内の禁煙・分煙(平成 23 年) (複数回答)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

⑤アルコール



主な目標項目の達成状況

(達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化)

目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成
多量飲酒者の割合 (1日3合以上)	男性 4.2% 女性 0.4%	男性 4.8% 女性 0.9%	男性 3.7% 女性 0.4%	男性 3.2% 女性 0.2%	△ △
妊婦飲酒者の割合	20%	4.1%	3.4%	0%	○
従業員が「アルコール依存」について学ぶ機会がある事業所の割合	—	3.7%	4.4%	増加	△

(すべての指標、目標値、達成状況、データ出典の詳細は51～52ページに掲載しています。)

評価結果の概要

- * 多量飲酒者(1日3合以上)の割合は策定時と比較して男女とも有意な変化なく、改善がみられなかった。
- * 年代別にみると50～60歳代男性は4割以上が週5回以上の飲酒習慣があった。
- * 妊婦の飲酒割合(妊娠届出時)は大幅に減少しており改善がみられた。

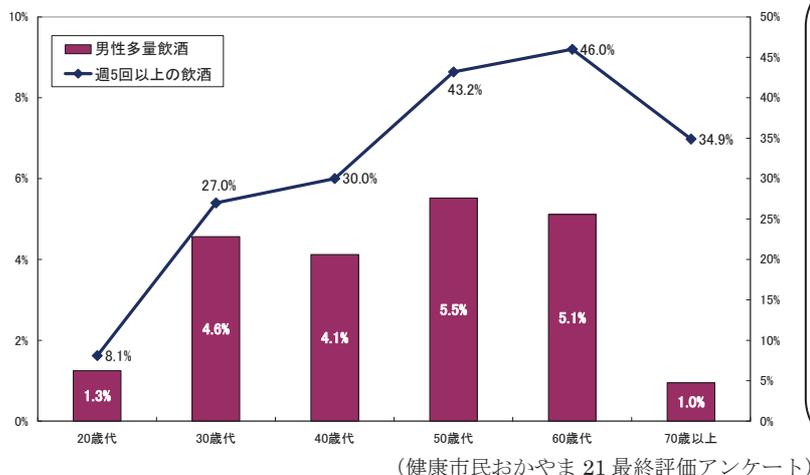
今後の課題

- ・ 多量飲酒者の割合は減少しておらず、アルコールの健康への影響、依存症などに関する知識の普及を引き続き行っていく必要がある。特に頻回な飲酒習慣、寝酒の習慣をもつ割合が高い、50～60歳代男性への働きかけが重要である。
- ・ 生活習慣病のリスクを高める飲酒量(男性40グラム以上、女性20グラム以上)の知識についても普及していく必要がある。
- ・ 妊婦の飲酒率は減少しているものの3.4%である。妊娠、胎児、出生児への影響をふまえ、さらに減少を目指していく。



公民館まつりでアルコールパッチテストを実施している地域もあります。飲みすぎの健康への影響について住民の方みずからよびかけました。

多量飲酒者と頻回飲酒者の割合(男性 平成23年)



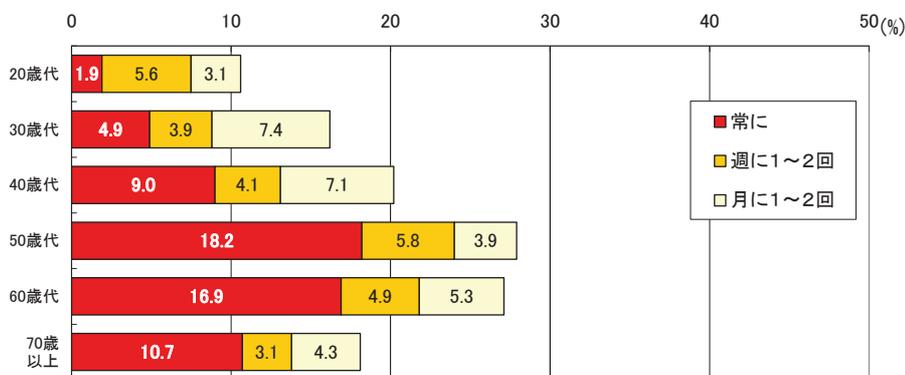
1日3合以上飲酒する男性の多量飲酒者の割合は、50歳代をピークに30～60歳代で4～5%であった。また、週5回以上飲酒する頻回飲酒者の割合は50～60歳代で4割以上であった。

適正飲酒 10か条

- 1 笑いながら共に楽しく飲もう
- 2 自分のペースでゆっくりと
- 3 食べながら飲む習慣を
- 4 自分の適量にとどめよう
- 5 週に2日は休肝日を
- 6 人に酒の無理強いをしない
- 7 くすりと一緒には飲まない
- 8 強いアルコール飲料は薄めて
- 9 遅くとも夜12時で切り上げよう
- 10 肝臓などの定期検査を

(社) アルコール健康医学協会 <http://www.arukenkyo.or.jp>

眠る前に飲酒をする割合(男性 平成23年)



(健康市民おかやま 21 最終評価アンケート)

アルコールは深い眠りをさまたげます！

お酒を飲むと眠くなる人がいます。このため、眠り薬代わりに寝酒をする人もいるようですが、ここに大きな落とし穴が…。お酒を飲むことでかえって目がさえ、夜間後半に何度も目を覚ます中途覚醒や、朝早く目が覚めてその後眠れなくなる早朝覚醒が多くなります。睡眠薬代わりにの寝酒は、睡眠の質を悪くするのです。また、アルコールを連用することに慣れが生じ、同じ量では寝付けなくなってしまい、アルコールの飲酒量が増えているなど留意が必要です。十分な睡眠を確保するためにも、眠る前の飲酒は避けましょう。



⑥歯の健康



主な目標項目の達成状況

(達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化)

目標項目	策定時	中間時	最終時	目標値	達成度
年一回歯科検診を受けている人の割合	19%	26%	29%	30%	○
むし歯のない幼児の割合 (3歳児)	68%	74%	78%	80%	○
12歳児の一人平均むし歯数	1.87本	1.29本	0.72本	1本以下	◎
フッ素洗口を実施している児童、生徒の割合	4小学校	9小学校 (3幼稚園)	10小学校 (9幼稚園 6保育園)	40校以上	○
60歳代で自分の歯を24本以上保っている人の割合	51%	—	57%	増加	○

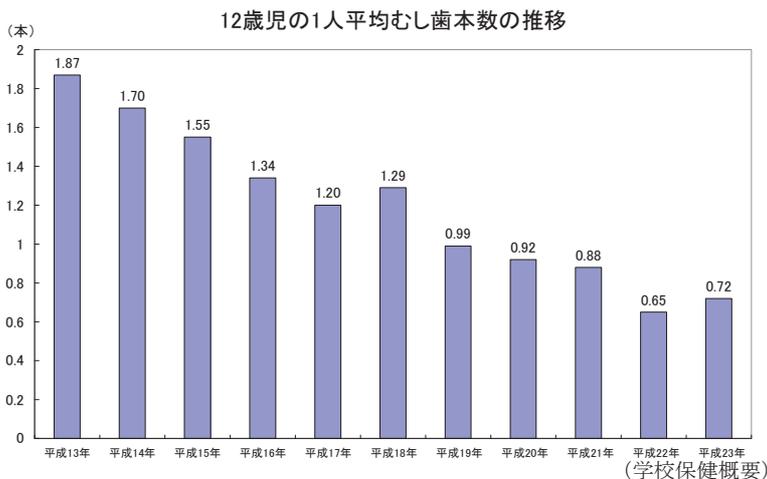
(すべての指標、目標値、達成状況、データ出典の詳細は51～52ページから掲載しています。)

評価結果の概要

- * 目標値に達成もしくは改善した項目がほとんどだった。
- * 歯科検診や歯石除去、歯磨き指導などのプロフェッショナルケアを受ける人の割合は増加した。しかし歯科検診の受診割合は29%、歯石除去を受けた割合は27%で、全国平均(歯科検診34.1%、歯石除去38.2%)よりも低かった。
- * 幼児、12歳児のむし歯の状況は大幅に改善した。12歳児の一人平均むし歯本数は全国平均(1.3本)と比較して良い結果であった。一方、むし歯のない3歳児の割合は全国平均(77.1%)とほぼ同じであった。

今後の課題

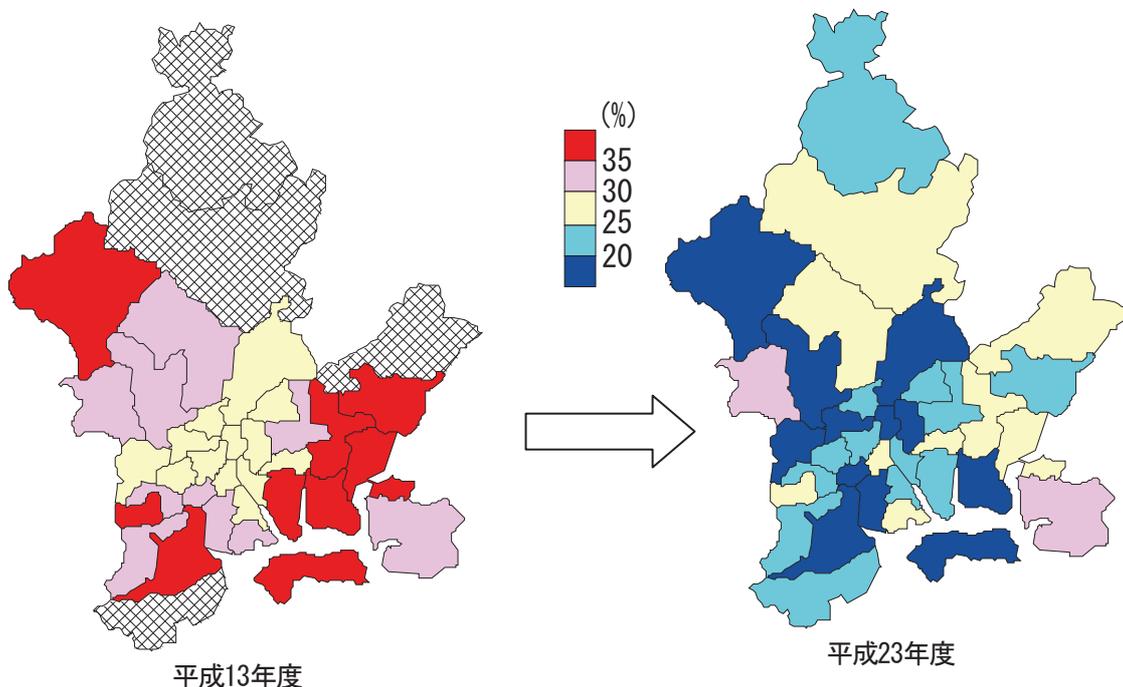
- ・ 3歳児のむし歯の状況は改善しているものの、市内での地域差はあり、今後地域差をなくしていく必要がある。
- ・ 今後、高齢化が進むことをふまえると、歯の喪失防止に加え、口腔機能の維持・向上をすすめていくことが必要である。
- ・ 高齢期の口腔機能の維持につながるよう、幼児期からの口腔機能の健全な育成が大切であり、歯の喪失を抑制するために、むし歯と歯周病の予防をすすめてくることが必要である。



12歳児の1人平均むし歯本数は策定時からの10年間減少傾向が続いており、最終評価時には策定時の約4割まで減少した。

むし歯のある三歳児の割合の変化(中学校区別) (平成13年度→平成23年度)

(岡山市三歳児健康診査)



⊠の地域は岡山市と合併前であったためデータなし

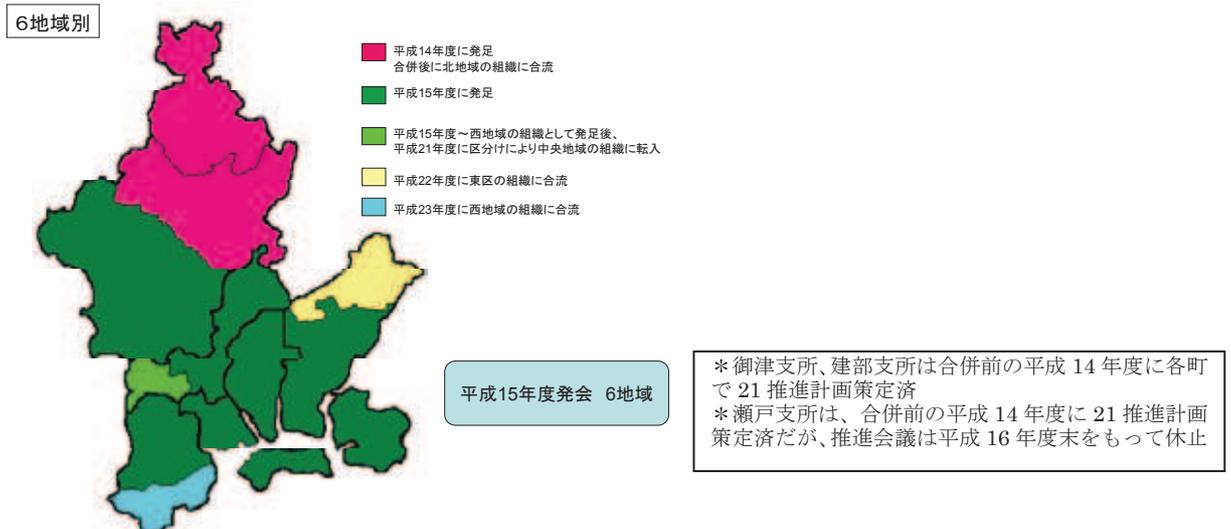
むし歯のある三歳児の割合は10年間で減少した。地域によってその割合には差がある。

3) 基本方針（市民主体の推進体制、地域連携の健康づくり）に関する成果

①地域のネットワークの広がり(推進組織地図、組織関係図)

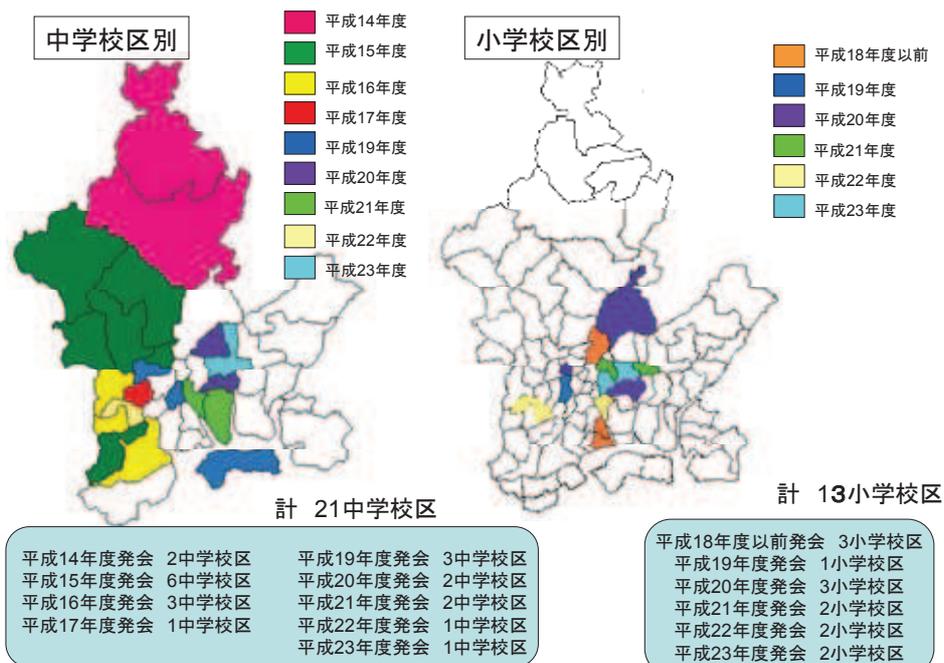
地域での推進体制の整備

地域で健康市民おかやま21を進めるために、地域ごとに推進会議をつくりました。



より住民に身近な小単位の組織づくりを目指し、中学校区単位21カ所、小学校区単位13カ所に推進組織ができました。

健康市民おかやま21推進組織の地域への広がり



組織関係図でみる地域でのつながりの強化

健康市民おかやま21の活動の10年目を迎えるにあたって、現在どんな組織や団体が21に取り組んでいるのか、またそれぞれの組織・団体とどんな連携をとっているのか、など活動の広がりを目で見えるかたちにするため、地域のメンバーで話し合いながらこれまでの活動を振り返り、平成23年度の状況を図にしました。

矢印の線の太さで「連携（つながり）の強さ」、矢印の線の方向で「連携（つながり）の方向」を表しました。

組織関係図作成組織（31カ所）

センター	組織名	センター	組織名		
中央	いきいき元気大元21	中区	中区健康市民おかやま21推進會		
	三門学区健康市民おかやま21推進會議		とみやま健康市民おかやま21推進會		
	元気ハツラツ長生き岡輝21		東山中学校区健康市民おかやま21		
	吉備・陵南いきいき21推進委員會		操南中学校区健康おかやま21推進委員會		
	みの健康21推進の會		財田学区健康市民おかやま21推進會		
	牧石学区健康21の會		幡多学区健康市民おかやま21		
	健康みなんにし21		宇野学区健康市民おかやま21		
	岡山中央学区健康市民おかやま21		三勲学区健康市民おかやま21		
	北		北市民健康づくり京山會議	東区	高島・旭竜けんこう21
			北市民健康づくり中山會議		健康市民おかやま21東区地域実行委員會
北市民健康づくり香和會議		西	丈夫で長生きせのお・みしま		
北市民健康づくり高松會議			ふじた健康21		
北市民健康づくり足守會議			健康こうじょ21推進會		
御津健康づくり推進協議會			すこやか福田		
建部地域健康づくり推進委員會			ストレッチ西の會		
			南		いきいき南グループ
					合計

上記の計31地域の推進會議が作成し、地域で複数の組織・団体が連携して健康づくりへの取り組みが活発に行なわれ、地域のネットワークがより広がり、強化されてきたことが明らかになりました。地区組織や21の組織だけでなく、新たに企業や学校との連携ができた地域も一部あり、地域差がみられました。組織関係図と感想を抜粋して掲載します。

組織関係図

～活動のひろがりを目でみえるカタチにしましょう！～

平成15年度に健康市民おかやま21がスタートしてから、地域で様々な組織・団体が連携をとりながら21に取り組み、活動がひろがっていると思います。

10年目を迎えるにあたって、現在どんな組織や団体が21に取り組んでいるのか、またそれぞれの組織・団体とどんな連携をとっているのか、など活動の広がりを目でみえるかたちにしましょう。

地域のメンバーで話し合いながらこれまでの活動を振り返り、今(23年度)の状況を図にしてください。

連携(つながり)の強さを矢印の線の太さで、連携(つながり)の方向を矢印の線の向きで示してください。

☆この組織関係図をつくる過程での、メンバーの話し合いを大事にしてください



<実施単位>

任意ですが、小さい単位で実施するほうが図を描きやすいようです。
(組織・団体数が多いと関係が複雑になり、図に描きにくくなります。)

<実施方法>

- ★ 地域で21に取り組んでいる組織・団体を書き出し、それぞれの間に関連(つながり)があるところは矢印で示す
- ★ 矢印の線の太さで「連携(つながり)の強さ」を表す(下記の表を参考に)
- ★ 矢印の線の方向で「連携(つながり)の方向」を表す(一方的に働きかけている段階は片方の向きの矢印で示す)
- ★ 連携(つながり)の内容を記述し、番号をつけて線の横にも番号を記す(①21 会議、②ウォーキング、③イベント など)
- ★ 実施後、作成した組織関係図をみての、実施メンバーの感想(これまでの成果、今後の課題ふくめ)を書いてください
- ★ 図は手書きで提出していただいても構いません。その際は矢印の太さのレベルがよくわかるように記載してください

<実施する上で参考にしてください> (プレ実施をふまえて)

- ◆ 地域の21組織は図の中心に置いて、他の組織・団体との関係を記入していったほうが描きやすいようです。
- ◆ 実施前に、地域の中にある組織・団体(21組織と関係のあるもの)を付箋や紙の札などにみんなで書き出し、模造紙やホワイトボードなどの上で図を完成させていくと実施しやすいようです。

矢印の線の太さの目安

線の太さ	線なし	← - - - - →	←====>	←=====	←=====
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
段階の目安	まったく連携がない	はたらきかけているが、まだ連携はとれていない	徐々に連携がとれつつあるが具体的な取り組みはない	連携をとりながら単発のイベントや健康教育などしたことはある	日頃から連携がとれる関係であり、具体的な取り組みがある

